

# 第 134 回実践勉強会 実施レポート

共催 大田区薬剤師会・大鵬薬品工業

参加者 91 名

開催日時：2021 年 10 月 26 日（火） 19:45～21:15 Zoom ウェビナー

**講演 19:45～20:30**

**「アレルギー性鼻炎の症状と治療について」**

**東邦大学医学部 耳鼻咽喉科学講座 助教**

**梶原 理子 先生**

**特別講演 20:00～21:15**

**「緩和薬物療法における薬学的安全管理」**

**東邦大学医療センター大森病院 薬剤部 副部長(部長代行)**

**松本 高広 先生**

実践勉強会 Q&A

梶原先生

Q 滲出性中耳炎について、病変が脳に近いと重症例だと死亡例もあるのでしょうか？

A 以前はあったのですが、現在は軽症でもすぐ受診をしてくれますし、抗生剤が発達しているのです、重症化することがなくなってきております。

Q 補聴器について、ネットで注文して使用するよりも専門店でカウンセリングを受け、リハビリをしながら補聴器を使用した方が良いのでしょうか？

A 認定技能士がいるところでしっかり説明を受け、リハビリをしながら補聴器を調整すると良いと思います。

Q 副鼻腔炎のマクロライド治療で二ヶ月治療一ヶ月休薬という治療法もございますか？

A 基本的には三ヶ月を推奨しております。

Q デュピルマブの著効例を拝見しましたが、外科的手術よりも優先することはあるのでしょうか？

A 好酸球性にはデュピルマブでも良いかもしれませんが、外科的手術があつてからこそその薬物療法なので、基本的には手術優先です。

松本先生

Q 薬剤性アカシジアが発現したときは、原因薬を中止するだけでしょうか？対症療法として薬剤は追加されておりますでしょうか？

A 原因薬剤を中止することが一番です。対症療法の薬剤は追加しておりません。

Q 痩せている患者さんに低容量のフェンタニルは効きにくいと仰っていましたが、実臨床では如何でしょうか？

A フェンタニルはある程度増量すると頭打ちになってしまう、モルヒネへの切り替え、持続注射、持続皮下注に切り替えを検討しております。